

地域在住高齢者における扁平足と足の自覚症状、 および肥満との関連

オオツカ 大塚	レイ 礼*	ヤツヤ 八谷	ヒロシ 寛*	ミウラ 三浦	ヤヨイ 弥生 ^{2*}	ムラタチヨエ 村田千代栄*
タマコシ 玉腰	コウジ 浩司*	オオシロ 大城	コウジ 宏治*	ニシオ 西尾	ナオキ 直樹*	イシカワミユキ 石川美由紀*
チョウ 張	フイミン 恵明*	シオザワ 塩澤	まゆみ ^{2*}	コバヤシ 小林	あゆみ ^{2*}	イトウミカ 伊藤美果 ^{2*}
ホリ 堀	ヨウコ 容子*	コンドウ 近藤	タカアキ 高明*	トヨシマ 豊嶋	ヒデアキ 英明*	

目的 扁平足は足の矢状方向のアーチ高が低下した状態であり、高齢者において足の痛みとの関連が報告されている。一方、健康成人では痛みとの関連はないとの報告もあり、扁平足と足の痛みとの関連性については定かでない。また小児では扁平足と肥満との関連が示されているが、高齢者における関連は明らかでない。本研究では簡便なフットプリント法を用いて、地域在住高齢男女における扁平足の頻度を求め、扁平足と足の痛みや疲れとの関連、ならびに扁平足と肥満の関連について検討する。

方法 長野県阿南町に居住する60歳以上の在宅自立高齢者2,392人のうち、調査に参加した340人（男性98人、女性242人）を対象とした。身長、体重の計測、フットプリント（足跡印画）の採取を行い、足に関する症状や日常の身体活動に関するアンケートを行った。フットプリントよりHライン（内足部接線と外足部接線の交点と、第二趾先端部とを結ぶ線）、footprint index（土踏まず面積/五趾部を除いた足底面積）を測定し、少なくとも一方の足で土踏まずの窩みがHラインより内側である場合を扁平足とした。足裏の痛みや疲れは「まったくない」、「歩いたり立つとある」、「いつもある」のいずれかから選択させた。肥満度の指標としてbody mass index (BMI: kg/m²)を用い、男女別に求めたBMIの3分位による分類と扁平足との関連性について検討した。

結果 扁平足は男性の26.5%（95%信頼区間：22.0-31.0）、女性の25.7%（95%信頼区間：20.2-31.2）に認められた。扁平足を有する者における足裏の痛みは男性32.0%、女性28.3%、疲れは男性34.6%、女性48.3%に認められ、扁平足なしの者におけるその割合に比し高く（痛み：男性17.2%、女性22.2%、疲れ：男性19.7%、女性28.0%）、特に女性における疲れと扁平足との関連は有意であった。BMIと足裏の症状には関連性は認められなかった。女性ではBMIの増加に伴い扁平足を有する者の割合は増加し（ $P=0.04$ ）、footprint indexも低値をとった（ $P=0.02$ ）。男性ではBMI 3分位が第2、第3分位群では第1分位群に比し扁平足を有する者の割合が高かったが、その差は有意ではなかった。

結論 扁平足の者では足裏の痛みや疲れを感じている者の割合が高く、女性では扁平足と肥満の間に有意な正の関連性が認められた。

Key words : 扁平足, フットプリント, 肥満, 痛み, 疲れ, 横断研究

* 名古屋大学大学院医学系研究科
健康社会医学専攻 社会生命科学講座
公衆衛生学/医学ネットワーク管理学分野

^{2*} 長野県阿南町民生課
連絡先：〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
豊嶋英明